

**授業概要**

本講義では、胎児期から乳幼児期に至る発達について、成育歴、身体・運動、感覚知覚・認知機能の発達、感情、対人関係、自己、言語発達などについて講義し、個人の発達や適応について理解できるように指導する。とくに、乳幼児を取り巻く環境や親子関係・子ども同士の関係のあり方と心理的発達について、従来の発達理論をふまえて講義する。必要に応じて、行動観察、ロールプレイ、グループディスカッション等、演習課題を取り入れ、多様な対象の理解や彼らを取り巻く人的環境・物的環境との関連を理解できるように進める。乳幼児期の発達や適応に関する十分な知識を身につけ、対象への理解や支援に活用できる力を養う。

**授業計画**

第 1 回	乳幼児心理学の概要とガイダンス
第 2 回	発達を規定する要因—生物・心理・社会的側面の重要性和可塑性
第 3 回	誕生と初期環境 胎児・新生児期の特徴と他者との関係の始まり
第 4 回	乳幼児期の発達を捉える手法
第 5 回	身体・運動機能の発達と日常生活動作の獲得
第 6 回	親子関係とコミュニケーションの発達
第 7 回	愛着関係の発達
第 8 回	感情・社会性の発達—自己と感情調整 心の理論
第 9 回	言語発達
第 10 回	認知発達
第 11 回	集団保育における自己と他者の関係—乳幼児の学びを支える環境
第 12 回	仲間関係の発達
第 13 回	乳幼児の発達理解の方法 発達のアセスメント
第 14 回	発達相談 ① 障害のある子どもと発達支援
第 15 回	発達相談 ② マルトリートメントの理解と対応
第 16 回	期末試験

**到達目標**

- ①胎児期から乳幼児期に至る発達に関する基本的な知識（感覚知覚、運動、言語と思考、認知、情緒、欲求、対人関係、自己など）に基づき、個人の発達や適応に関する理解を深め、支援に活用する力を身につける。
- ②乳幼児自身と彼らに関わる様々な人々（家族や保育者、援助者など）及び彼らが抱える困難を理解し、関わりや援助の方法について理解できる。

**履修上の注意**

- ・受講にあたっては、「心理学概論Ⅰ」ならびに「心理学概論Ⅱ」を受講済みであること。
- ・初回の授業時に、受講のポイントを伝えるので、初回授業には必ず出席してください。
- ・授業内で行う演習課題は、授業終了時に提出すること。
- ・本科目は子ども発達学科開講の「幼児心理学」とは別科目であるため、資格・免許取得のための選択必修科目とみなすことはできません。

**予習・復習**

- 【予習】授業計画をふまえ、乳幼児期の発達とその支援に関する関心と問題意識をもって授業に臨むこと。次回の授業内容について、他の授業科目と関連づけた「キーワード」を考えておくこと。
- 【復習】地域に生活する乳幼児及びその家族と関わる機会を積極的に求め、乳幼児の発達および適応を支援する実践につなげられるよう努力すること。

**評価方法**

授業への参加態度（20%）。授業内で提出を求める小論文（レポート）（50%）。学期末試験（30%）に基づいて評価を行う。

**テキスト**

- ・教科書は特に指定しない。必要があれば授業内で紹介する。配布資料をもとに試験を実施する。